

製品・サービス動向-国内

■ソニービジネスソリューション：最大 16
拠点に対応したシンプル・コンパクト MCU
を発売

コンパクト MCU「PCS-MCS1」

(取材：2015年11月27日)

ソニービジネスソリューション株式会社 (<http://www.sonybsc.com/>) (東京都港区) は、最大 16 拠点の多地点接続機能を搭載した、かんたんセットアップ・会議設定が可能なコンパクト MCU「PCS-MCS1」を 2016 年 1 月から発売する。価格はオープンプライス。

ソニーは、最大 500 拠点までの多地点接続のほか、会議予約やゲートキーパーなどの機能を有し、カスタマイズにも対応した「PCS-VCS シリーズ」を現在提供 (2010 年以降順次発売) している。

一方、今回販売を開始する PCS-MCS1 は、PCS-VCS シリーズとは違いサーバールームなどの特別な部屋への設置が不要なシンプル・コンパクト・静音をコンセプトとした設計モデルとなっている。

多地点接続を行う上で基本的な機能に絞り、エンドユーザでも気軽に会議室などに持ち運び、簡単に多地点会議をセットアップしたり会議を制御したりできるシンプルさが特長である。さらに、他社の MCU のコ

ストにも対抗した価格設定となっている。

PCS-MCS1 は、PCS-XG100 の内蔵 MCU 機能をベースに、ポート数を増やした、外付けの MCU として開発・製品化したもの。基本的には HD 端末向け (もちろん SD 端末も接続可能) を想定しているが、現在同社が提供している PCS-XG シリーズ向けの内蔵 MCU 機能と拡張性が高い MCU である PCS-VCS シリーズとの中間に位置する製品である。

ターゲットとする基本的なユーザは、社内にあるビデオ会議端末の内蔵 MCU のポート数が足りない、あるいは、内蔵 MCU 機能を搭載しているビデオ会議端末 (親機) を所有していないといったビデオ会議ユーザのほか、低コストで新規・追加導入を要望するユーザを想定している。

PCS-MCS1 での多地点会議への接続方法は、「ダイレクト接続モード」と「オペレータ接続モード」の二種類ある。前者は、端末から PCS-MCS1 に直接接続することで会議に参加できるもの。また、後者は、Web ブラウザから PCS-MCS1 を操作して、一斉発信接続 (ダイヤルアウト) が行えるもの。その際は、PC から LAN 経由で PCS-MCS1 に接続・ログインし、会議の参加者の登録や会議設定などが行えるようになっている。

多地点接続数については、標準で 4 拠点までサポートされている。そこから拠点数を増設する場合は、オプションで、最大 10 拠点 (4⇒10 拠点拡張ライセンス「PCSA-MPE1」)、もしくは、16 拠点 (10⇒16 拠点拡張ライセンス「PCSA-MPE2」) まで拡張できるようになっている。

映像の品質の面については、最大 1080/60p フル HD に対応しており、高精細で滑らかな動きを再現で

きる。また、H.264 ハイプロファイルにも対応しているため、従来比 1/2 の帯域で HD によるビデオ会議が行える。加えて、ネットワークのパケットロスや遅延などの状況に応じて高品質な通信環境を提供する「インテリジェント QoS 機能」にも対応している。ネットワーク帯域を多くとれない環境でも高画質なビデオ会議が可能となっている。

「フル HD などに加え、端末側で提供されている逆光や暗いシーンに強い View-DR 機能の他、歪みの少ないクリアな映像を実現する技術を組み合わせることで、ソニーならではの圧倒的な高画質をビデオ会議で実現している。」(ソニービジネスソリューション)

以上のほか、2つのネットワークインターフェイス(社内 LAN/公衆インターネット混在接続に活用可能。)、複数の画面レイアウト、映像・音声・PC 画面の暗号化(128bitAES)、PPPoE、Android/iOS 端末(オプション:モバイルアクセスライセンス「PCSA-MSA1」)からの接続にも対応している。

PCS-MCS1 により、ソニーとしては MCU のラインナップが増えることから、ビデオ会議ソリューションの提案の幅が広がるという。PCS-VCS シリーズを発売して以来、ペットフーズ、金融、ガスなども含め幅広い業種での導入が進んでいる。10 ポートから 15 ポートの案件が多いという。MCU のコストパフォーマンスにおいて他社に対する優位性をさらに出すため、今回、PCS-MCS1 の提供開始に至った。

なお、PCS-MCS1 の発表と同時期に、高音質の強化が行われた。これは端末側に提供される機能ではあるが、PCS-XG シリーズの最新のファームウェアをインストールすると、会議室の広さや参加人数によって、「近距離・自然モード」「バランスモード」「広範囲・クリアモード」といった3つのモードから最適な音質設定が行えるようになっている。

「この3つのモードはマイクの位置によって、発音が聞き取りにくいといった現象を解消し、これまでよ

りもさらに臨場感あふれるビデオ会議を実現している。」(ソニービジネスソリューション)

■NTT コミュニケーションズ：会議系サービス「Arcstar Conferencing」の機能を拡充

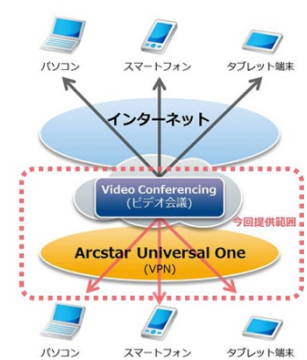
(1月7日)

NTT コミュニケーションズ株式会社(<http://www.ntt.com/>) (東京都千代田区)は、同社が提供している会議系サービス「Arcstar Conferencing」において、1月7日より、機能拡充を順次行うと発表。

■テレビ会議のインターネット対応



■ビデオ会議のVPN対応



Arcstar Conferencing の機能拡充

(NTT コミュニケーションズ)

(1) 「TV Conferencing のインターネット対応」:
TV Conferencing (テレビ会議) は、テレビ会議専用の端末および専用のネットワークを使用することで、高品質な映像会議を提供するサービス。

そのため従来は専用の設備がない外出先からの参加や他社からの参加はできなかったが、このたび新たに、インターネット回線を利用したマルチデバイスに対応することで、外出先からの会議への参加も可能になった。

今回の対応により、社外を含めた通常の会議ではインターネット回線からの参加も実施し、機密性や品質を重視する役員会議は専用ネットワークのみを利用するといった使い分けも可能となる。

費用について。月額 400,000 円(税抜)～。TV

Conferencing の契約・利用料金に加え、「Web Conferencing(Web 会議)」の契約・利用料金 (1 ID あたり月額 13,000 円 X 5ID~) が必要。1 月 7 日から提供開始。

(2)「Video Conferencing (ビデオ会議) の VPN 対応」: インターネットへの接続環境があればマルチデバイスで会議に参加できるサービス。

Arcstar Universal One ゲートウェイを設けることによって、企業向け VPN「Arcstar Universal One」を通したよりセキュアで安定したサービスの利用を選択することが可能になった。

なお、すでに Arcstar Universal One を利用している場合は、インターネットの帯域を増加することなくビデオ会議を利用することが可能になる。

費用については同社営業担当に問い合わせ。1 月 7 日から受け付け開始し、4 月から提供開始。

ビジネス動向-国内

■ブイキューブ：仙台に開発拠点を新設

(1 月 5 日)



**V-CUBE
TECHNICAL
WORKS**

株式会社ブイキューブテクニカルワークス

(ブイキューブ)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都目黒区) は、ビジュアルコミュニケーションサービス「V-CUBE」の開発子会社として、株式会社ブイキューブテクニカルワークス (東京都目黒区) を設立した。

新設する仙台開発拠点は、ブイキューブの開発拠点

があるシンガポール、東京と共同で、最新技術の研究並びに「V-CUBE」サービスの開発・保守・運用に取り組む。国内では、大阪、名古屋、福岡に営業拠点を開設してきたが、東北エリアには国内初の開発拠点の開設となる。

ブイキューブテクニカルワークスは、地方創生の一環として、東京にこだわらずにエンジニアが地元の東北でグローバルに展開するサービス開発に携われる環境を実現する。また、新規人材採用を進め、東北の優秀なエンジニアの採用と教育に取り組む。

ブイキューブは、世界中どこにいても働ける働き方を目指しており、2012 年 1 月よりシンガポールに R&D 機能を備えた開発子会社を設立し、シンガポールと東京で多国籍のエンジニアによる開発を続けてきた。

V-CUBE の活用範囲が加速的に広がってきており、遠隔教育や遠隔医療といった社会インフラとなるコミュニケーションプラットフォームとしても注目が高まっていることから、サービスのさらなる信頼性向上や利用シーンに合わせたソリューション化に素早く対応していく開発体制の強化が必要と判断し、今回の新しい開発拠点の設立となった。

■ブイキューブ：ベネッセコーポレーションの通信教育事業におけるオンラインレッスン「Challenge English」のインフラに「V-CUBE」を提供

(1 月 13 日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都目黒区) は、株式会社ベネッセコーポレーション (岡山県岡山市) が通信教育事業で取り組んでいるオンラインレッスンの映像コミュニケーションインフラとして、「V-CUBE」を提供している。

V-CUBE は、ベネッセコーポレーションの提供する小学生向けの「Challenge English」コースで、フィリピンの英会話講師と日本の子供を接続した 15 分間の

マンツーマンオンラインレッスンのインフラとして稼働しており、毎月1万人以上の子供たちが受講している。

ベネッセコーポレーションでは、学習スタイルの多様化に対応していくため、0歳から18歳までを対象とした通信教育事業において、これまでの自習型教育に加えて、講師と生徒を結んだオンラインレッスンの提供に取り組んでいる。

今後のオンラインレッスンの提供拡大を見据えて、開発効率と生徒の利便性の両面を向上し、教育コースの全ラインナップで汎用的に利用可能なオンライン教育システム基盤の構築が検討された。

その中で、基盤の要素として、オンラインレッスンを支えるビジュアルコミュニケーションが含まれており、教育事業で必要とされる機能に柔軟に対応できるサービスが求められていたという。

今回の採用にあたっては、ブイキューブの教育事業におけるビジュアルコミュニケーションの活用において豊富な知見とカスタマイズ開発への対応力のほか、PCやタブレット端末だけでなく、ベネッセ独自開発のタブレット端末「チャレンジパッド」からも利用可能なマルチデバイス対応などが評価された。

■ ソフトフロント：飛躍的な高音質を実現した新しい VoIP 技術「REAFSVC」の開発と提供開始

(2015年12月1日)

株式会社ソフトフロント (<http://www.softfront.co.jp/>) (東京都港区) は、途切れない音声、CDのようなクリアな音声、スマホからサーバまでさまざまなシステムに対応した、新しい VoIP 通信方式「REAFSVC」(リーフス ブイシー)を開発した。

同時に、REAFSVC をさまざまなアプリや機器へ搭載可能にする音声通信エンジン「SUPREE embedded

Audio Engine」の提供を2015年12月1日より開始する。

REAFSVC は、同社が VoIP において「飛躍的な高音質を実現するメディア通信技術」の研究に取り組んだ中から生まれたソフトフロント独自の新しい VoIP 技術。

有線ネットワークを対象としたこれまでの VoIP 技術に対して、電波状態などで大きく通信状態が変化したり、パケット損失率が10%となるような非常に状態の悪い、携帯電話や無線 LAN などのモバイルネットワークに最適化したのが特徴で、品質試験の国際標準規格 POLQA 値 4.0 以上の音質を達成しており、従来技術や他社製 VoIP アプリと比べ、大幅な音質向上を実現している。

【従来の VoIP 技術】

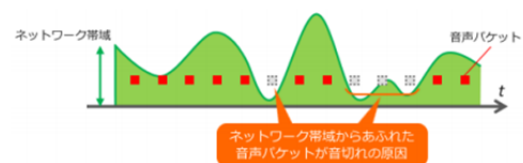


図 従来の VoIP 技術で発生する「音切れ」

【REAFSVC】

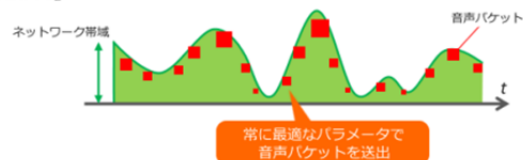


図 REAFSVC 技術による「音切れ」防止

REAFSVC の特徴 (ソフトフロント)

サンプリングレート	音質
8,000Hz	アナログ電話、IP 電話
16,000Hz	VoLTE
32,000Hz	FM ラジオ
44,100Hz	CD
48,000Hz	REAFSVC

REAFSVC の特徴 (ソフトフロント)



REAFSVC の特徴（ソフトフロント）

音切れを防ぐ点では、REAFSVC では、ネットワークの状態を常に解析し、その状況に合わせてリアルタイムにパラメータを動的に最適化させている。

音声の明瞭さにおいては、REAFSVC では、サンプリングレートを 48KHz とし、CD 以上の高音質を実現している。

さまざまなシステムに対応するところでは、従来の VoIP 技術にも対応しているため、既存の VoIP 製品との通話も可能となっている。1 対 1 通話のほか 1 対多の会議構成にも対応した。

■経済産業省：薬局および薬店における外国人向けテレビ電話通訳サービス事業に係る取り扱いが明確に

(1月12日)

経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/>) (商務情報政策局ヘルスケア産業課) は、「グレーゾーン解消制度」により、薬局および薬店における外国人向けテレビ電話通訳サービス事業の実施に係る取り扱いが明確になったと発表。

グレーゾーン解消制度は、産業競争力強化法に基づくもので、事業に対する規制の適用の有無を、事業者が紹介することができる制度。

同省によると、事業者より、薬局および薬店を訪れる外国人向けのテレビ電話通訳サービスをコールセンターにおいて実施する事業において、(1) 提供しようとするサービスが薬剤師法に定める「必要な薬学的知

見に基づく指導」に該当するか否か、および、(2) 提供しようとするサービスが医薬品医療機器等法に規定される、薬剤師などが行うこととされている情報提供等に該当するか否かについて照会があったという。

これを受けて、関係省庁が検討を行った結果、照会のあったサービスについては、薬剤師法は薬剤師の義務を定めているため、コールセンター通訳担当者には適用されない。また、コールセンター通訳担当者による通訳行為自体は医薬品医療機器等法に規定する情報提供等の義務に抵触するものではない旨の回答を行ったという。

今後、外国人が薬局および薬店を利用する際の利便性を向上するサービスの創出につながることを期待されるとしている。

ビジネス動向-海外

■ブイキューブ：中国大手教育ウェイボー社、同社のオンライン教育インフラに「V-CUBE」を採用

(2015年12月16日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都目黒区) の発表によると、中国で 30 万人以上の生徒数を保有し大手英語教育事業を展開する韋博国際英語 (以下、ウェイボー社) が新規にサービス展開するオンライン教育インフラに「V-CUBE」が採用された。

ブイキューブの完全子会社で、中国で事業展開を行っている威立方 (天津) 信息技术有限公司 (以下、ブイキューブチャイナ) が、ウェイボー社の教育インフラとして 2016 年 1 月より提供開始する。

ブイキューブは、教育分野におけるビジュアルコミュニケーション活用を成長戦略の柱の一つとして掲げている。これまで、パイオニア VC 株式会社、株式会社システム・テクノロジー・アイ、Wizlearn Technologies 社を子会社するなど国内外で積極的な取

り組みを行ってきた。今回のウェイボー社での採用は教育分野での中国における好例と考えているという。



ウェイボー社で提供されるオンラインレッスンの画面イメージ（ブイキューブ）

ウェイボー社は、1998年から英語教育事業に取り組んでおり、中国国内50都市以上で150以上の教室を運営し、個人向けや法人向けなど30万人以上の生徒に英会話教育サービスを提供している。

採用された理由としては、（1）インターネット回線など利用環境に左右されにくい高い接続性、（2）教育事業に特化したカスタマイズ開発への対応、（3）30万人以上の生徒が利用可能な拡張性、（4）顧客からの相談や問い合わせへのきめ細やかな対応、といった点があるという。

ブイキューブとしては、今後、教育分野でのビジュアルコミュニケーション活用を中国だけでなく、アジアを中心としたグローバルでも展開していく考え。グループ全体で「アジア No.1 のビジュアルコミュニケーションプラットフォーム」を目指し、教育分野においては、アジア No.1 の EduTech カンパニーとしても充実したサービスを提供できるよう取り組んでいくとしている。

■LifeSize : Logitech International 社から独立、総額 1750 万ドルの資金調達、SaaS 事業を加速。Logitech 社も株主として留まる。

Logitech International 社 (<http://www.logitech.com/en-us>) (スイス) の発表によると、ビデオ会議製品の開発と販売を行う LifeSize 事業部門 (<https://www.lifesize.com/ja>) (2009年11月、4億500万ドルで買収された) が Logitech International 社から独立 (スピナウト) する。

独立後は、非公開企業 (a private entity) としてクラウドサービスにフォーカスした事業を継続するが、Logitech 社も株主として LifeSize の事業にかかわっていく。

また、スピナウトにともない、Redpoint Ventures 社、Sutter Hill Ventures 社、Meritech Capital Partners 社から総額 1750 万ドルの資金調達を実施。資金調達後の Logitech 社は 37.5% の株主シェアを持つ形になる。

今回のスピナウトを実施した背景には、Logitech 社にとって、リテールビジネスにフォーカスし、事業をよりシンプルな形にし、かつ迅速に展開させたいという戦略的な狙いがある。一方、LifeSize にとっては、今後、強く需要が見込めるクラウドビデオ会議市場において、SaaS プロバイダーとしての可能性をフルに発揮したい考えがある。

人事動向-海外

■Arkadin 社:同社の新 CEO に Didier Jaubert 氏が就任

Arkadin 社 (フランス) の発表によると、同社の新 CEO に Didier Jaubert 氏が就任した。

同社の創設者であり最高経営責任者の Olivier de Puymorin 氏は、Didier Jaubert 氏を Arkadin 社の CEO に任命し、株主の承認を諮ることを 1 月 5 日に発表した。Jaubert 氏は、各国現地法人を統括するアルカディ

ン社 CEO として事業全般のオペレーションを統括する。

発表にあたって de Puymorin 氏は、アルカディン社の持ち株会社である Arkadin International 社の CEO として、Jaubert 氏と緊密に協力してグループ戦略や親会社である NTT コミュニケーション株式会社との関係構築に専念すると表明している。

de Puymorin 氏によると、Jaubert 氏は 27 カ月前に、最高パートナーシップ責任者（Chief Partnership Officer）としてアルカディン社に入社して以来、素晴らしいリーダーシップとビジョンを発揮し、アルカディン社の成功の礎を築いたと言う。

アルカディン社は、NTT コミュニケーションズのグループ企業。大企業から中小企業まで、あらゆる規模の 37,000 社という顧客を 33 か国 56 拠点でサポートしている。世界 19 言語に完全対応したサービスを展開する。日本では、アルカディン・ジャパン株式会社 (<https://www.arkadin.co.jp/>)（東京都港区）が東京と大阪を拠点にサービスを提供している。

導入・利用動向-国内

■VTV ジャパン：寿スピリッツがアバイア社テレビ会議システムを採用、国内外のコミュニケーションインフラとして活用

（12月15日）

VTV ジャパン株式会社 (<https://www.vtv.co.jp/>)（東京都千代田区）は、寿スピリッツ株式会社 (<http://www.kotobukispirits.co.jp/>)（鳥取県米子市）へ、アバイア社のテレビ会議システム「Avaya SCOPIA XT シリーズ」を販売したと 12 月 15 日発表。同日、導入事例を VTV ジャパンホームページにて公開した。

「ルタオ」や「山陰銘菓 因幡の白うさぎ」などお菓子の製造・販売を主軸に展開している寿スピリッツグループは、国内外に 17 社（国内 16 社、海外 1 社）の

グループ会社を擁しており、グループ会社の社長や役員など毎回 40 名ほどが集まる会議を定期的で開催することで連携を密にしている。

2014 年から同会議の開催場所を米子から東京へ変えたことで、社外取締役の移動が困難になることが想定されたため、この問題を解決する遠隔会議システムの導入を検討した。



可動式ラックにテレビ会議システムを設置した寿スピリッツ（VTV ジャパン）

当初、安価に構築できる Web 会議を検討したが、デモ利用した際に、Web 会議の音声・映像品質ではスムーズなコミュニケーションが困難になると判断した。

次に同社が目にしたのはテレビ会議システムで、マルチベンダーに強みを持つ VTV ジャパン問い合わせた。主要メーカーの製品比較デモを行い、アバイア社製品なら違和感なく遠隔地の人とコミュニケーションが取れると評価した。

現在は、東京・米子・千歳のほか、台湾や福岡のグループ会社にもテレビ会議を導入しており、内蔵多点機能を活用した 3 拠点や 4 拠点の会議を行っている。

テレビ会議の活用頻度が上がり、品質会議や各種プロジェクトの会議、業者が参加した打ち合わせなど、同社にとって重要なコミュニケーションインフラとして活用されているという。

事例：<https://www.vtv.co.jp/casestudy/list/kotobukispirits.html>

導入・利用動向-海外

■エイネット：マレーシア最大級の総合保険会社、テレビ会議システム「FreshVoice」を全面採用

(12月17日)

エイネット株式会社 (<http://www.anets.co.jp/>) (東京都千代田区) のテレビ会議/Web 会議システム「FreshVoice」がマレーシア最大の総合保険会社のひとつである Hong Long Assurance Berhad (<https://www.hla.com.my/>) (以下、HLA) で全面採用された。

HLA は、マレーシアを拠点に金融・製造・流通・不動産開発・ホテルなど数多くの事業を展開し、上場企業は 13 社、関連企業は 500 社を超えるアジアでも有数のコングロマリット Hong Long グループの中核企業。

マレーシアで最大級の総合保険会社であり、2010 年には三井住友海上グループホールディングス (現: MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス) とも戦略的パートナーシップを締結。マレーシア国内での高齢化と Hong Long グループの資金力を背景に毎年右肩上がりの業績を上げているという。

HLA では、マレーシア国内の東海岸やボルネオ島のマレーシア領サラワクなど、遠隔地にある支店網との役員会議に使用するビデオ会議システムと、営業スタッフのためのトレーニングセミナーを各支店で共有するためのシステムを検討していたが、インターネット環境の悪さから満足いく製品がなく、対応に苦慮していた。

そういった中、エイネットはスマートフォンのデザリング機能のみを使った 3G 環境で FreshVoice の接続実験を実施。遠隔地にある同社の支店 8 か所と、会議を行う上で十分実用になる品質での接続に成功し、HLA での全面採用が決定したという。

これにともない、エイネットでは、2015 年 11 月、本社・各支店間のテレビ会議インフラ整備の第一弾として、HLA 本社会議室への PTZ カメラやエコーキャンセラー機能のあるマイクスピーカーなどを含めた会議システムならびに、トレーニングルームから各支店のセミナー室用のビデオカメラによる講義の中継・応答を行うための FreshVoice システムの納入を行った。

今後も、順次マレーシア全土の支店網でのシステム構築を進めていく計画となっている。

PR

>株式会社日立ハイテクノロジーズ

<http://cnar.jp/Hitachi-HighTech3.htm>

セミナー・展示会情報

<国内>

■「ポリコム&プリンストン ソリューションフォーラム 2016」〈弊社パートナー様および一般企業ユーザー様向けプログラム〉

日時：1月21日(木) 午前開催 10:00~12:00 (受付:9:30~) / 午後開催 15:00~17:00 (受付:14:30~)

会場：ポリコムジャパン セミナールーム(東京都新宿区)

開催：ポリコムジャパン株式会社/株式会社プリンストン
詳細・申込：

<http://www.princeton.co.jp/news/2015/12/201512141100.html>

■「ポリコム&プリンストン ソリューションフォーラム 2016」〈教育関係者様向けプログラム〉

日時：1月22日(金)

午前開催 10:00~12:00 (受付:9:30~)

/ 午後開催 15:00~17:00 (受付:14:30~)

会場：ポリコムジャパン セミナールーム(東京都新宿区)

開催：ポリコムジャパン株式会社/株式会社プリンストン
詳細・申込：

<http://www.princeton.co.jp/news/2015/12/201512141100.html>

■クラウドコラボセミナー (Best of Collaboration)

クラウドで実践！ 効果的なコラボレーションを！

日時：1月26日(木) 13:30～17:00(受付：13:00～)

会場：シスコシステムズ東京本社(東京都港区)

主催：ネットワンパートナーズ株式会社

協力：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：

http://www.netone-pa.co.jp/event/seminar_20160126.html

■ワークスタイル変革 実践事例セミナー ～コミュニケーション・コラボレーション変革からはじめるワークスタイル変革～

日時：1月27日(水) 15:00～17:00(受付：14:30～)

会場：リコージャパン ViCreA 東京ショールーム

(東京都中央区)

主催：リコージャパン株式会社

詳細・申込：<http://www.ricoh.co.jp/event/seminar/15S173.html>

■製造業コミュニケーション変革実践事例セミナー ～リコー社内実践紹介：コミュニケーション改善による設計開発業務の効率化～

日時：2016年2月2日(火) 15:00～17:00(14:30より受付開始)

会場：株式会社リコー 新横浜事業所(横浜市港北区)

主催：株式会社リコー

詳細・申込：<http://www.ricoh.co.jp/event/seminar/15S172.html>

■モバイル利用による最新の音声・ビデオコミュニケーション統合 デモセミナー

日時：2月5日(金) 15:00?16:30(受付:14:45～)

会場：メディアマート セミナールーム(東京都千代田区)

主催：デルタパスジャパン株式会社/メディアマート株式会社

詳細・申込：<http://mediamart.jp/seminar20160205/>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2015年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

<<編集後記>>

今年も定期レポート発行がスタートしました。年明け早々のLifeSizeスピンアウトのニュースには驚きました。今年はどういった年になるのか。さらに遠隔会議やUCが広まっていく年になればと思っています。今年も引き続き市場の動向をワッチしていきます。

皆さんのお役に立つように一層努力していく所存ですので、今後ご支援・ご協力をお願い申し上げます。(橋本啓介)

CNAレポート・ジャパン 2016年1月15日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp